

2024.7.3



令和6年度全国博物館長会議

新しいエコロジーと美術館活動

長谷川 祐子 Yuko Hasegawa

金沢21世紀美術館 館長

Director 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa



「開かれた美術館」を説くキーワード

- * Democracy : アートの民主化
- * Polyphony / Diversity : 多声唱和 / 多様性
- * Development : 未来への志向
- * Interaction/ Inter-dependence : 相互作用と相互共生







金沢21世紀美術館 震災後再開までの経緯 1

2024年1月1日 令和6年能登半島地震発生

被害状況

- ・展示室

天井ガラス約70枚 ひび割れ、ゆがみ、落下

- ・交流(無料)ゾーン

天井パネルのずれ、ゆがみ

- ・シアター21

可動席の損傷

休館日であったため、人的被害はなし

金沢21世紀美術館 震災後再開までの経緯 2

対応 全館休館 展覧会はすべて中止

展覧会ゾーンの再開にあたっては、来館者の安全確保、安全対策が最優先事項であるとして、美術館の設置者である金沢市は、安全性の確保と早期の開館を図るため、14全ての展示室と、同様のガラス板天井の仕様となっている「長期インスタレーションルーム」の15室すべてのガラス天井板、約800枚を撤去し、天井下地や照明器具が露出した状態の「露出天井」で再開することを決定。

金沢21世紀美術館 震災後再開までの経緯 3

2月6日 交流ゾーン 再開

市民ギャラリー A・B / タレルの部屋 / アートライブラリー /
託児室 / キッズスタジオ / 茶室 / レクチャーホール を再開

利用可能な交流ゾーンを活用し、美術館来場者の満足度向上と賑わいの創出に努める。

3月2日 交流ゾーンで「DXP2」展を開催 (3月24日まで)

3月末 天井のガラスの撤去を開始(6月7日に完了)

4月1日 シアター21の利用を再開

4月6日 交流ゾーンで「ポップ・アップ・アート」展を開催 (7月15日まで)

5月1日 レアンドロ・エルリッヒ「スイミング・プール」地上部公開

6月22日 展覧会ゾーン再開

「Lines(ラインズ)ー意識を流れに合わせる」展 を開催
(10月14日まで)

金沢21世紀美術館 震災後再開までの経緯 4

地域経済への影響

当館は北陸新幹線開業以降、来館者は年間200万人を超える市内観光の中でも目玉の存在でもあり、コロナ禍の2020年度には87万人まで落ち込んだが、2023年度は2022年12月末時点で223万人とようやく回復したかと思われた最中に今回の震災被害を受けた。県内の観光関連分野に与える社会・経済的影響は非常に大きい。

●震災以後の入館者数対比							
		1月	2月	3月	4月	5月	1～5月合計
コロナ禍前	2019年	154,126	183,857	246,667	224,947	247,457	1,057,054
コロナ禍	2020年	0	180,714	130,488	16,886	0	328,088
昨年	2023年	102,023	133,004	217,864	167,009	205,164	825,064
震災後	2024年	0	73,756	123,329	133,163	149,208	479,456
		※2020年1月は館内の改修工事のため全館休館、5月はコロナの緊急事態宣言を受け全館休館					
		※2024年1月は能登半島地震被害のため全館休館					
●震災後と前年との対比							
	対前年減少数	-102,023	-59,248	-94,535	-33,846	-55,956	-345,608
	対前年対比		55.5%	56.6%	79.7%	72.7%	58.1%

金沢21世紀美術館 震災後再開までの経緯 5

今後の対応

地震被害とは別に、美術館そのものの経年劣化も進んでいることから、金沢市では、中長期修繕計画に基づき、大規模修繕に向けた実施設計を、今年度と次年度の2か年で実施する。

天井の復旧計画についても、この実施設計にあわせて決定されることになる。施設全体の改修工程や時期も実施設計の中で検討し決定する。それまでの間は、現状の露出天井で運用していく。

照明器具や鉄骨が
露出したままの展示室



布をはることで
鉄骨等を隠した展示室



DXP

2023年10月7日～ 2024年3月17日

(本来の会期)

デジタルを食べる!?

ー身体と一体化するテクノロジー

デジタルテクノロジーによってこの地球という惑星、そこに住む「私たち」の生き方や感性はどのように変わっていくのか。20世紀から繰り返されてきたこの問いに対して今、これまでとは全く違った惑星の姿が出現しようとしています。人新世とよばれ、見えないネットワークやAIによるコントロールにひたされたこの惑星DXPでは、テクノロジーと生物との関係が日々新たに生成されています。

DXP展は、アーティスト、建築家、科学者、プログラマーなどが領域横断的にこの変容をとらえ、今おこっていることを理解し、それを感じられるものとして展開するインターフェースとなります。注目のテクノロジーであるAI、メタバースやビッグデータで構成される一つのリアリティ、そしてヴィジョンとしてのDXPは衣食住も含めた総合的なライフの可能性を提案します。



Keiichiro Shibuya 《Android Opera "Scary Beauty"》 2020
© Sharjah Art Foundation

DXP

「DXP(デジタル・トランス フォーメーション・ プラネット)」展

会期:2023年10月7日～

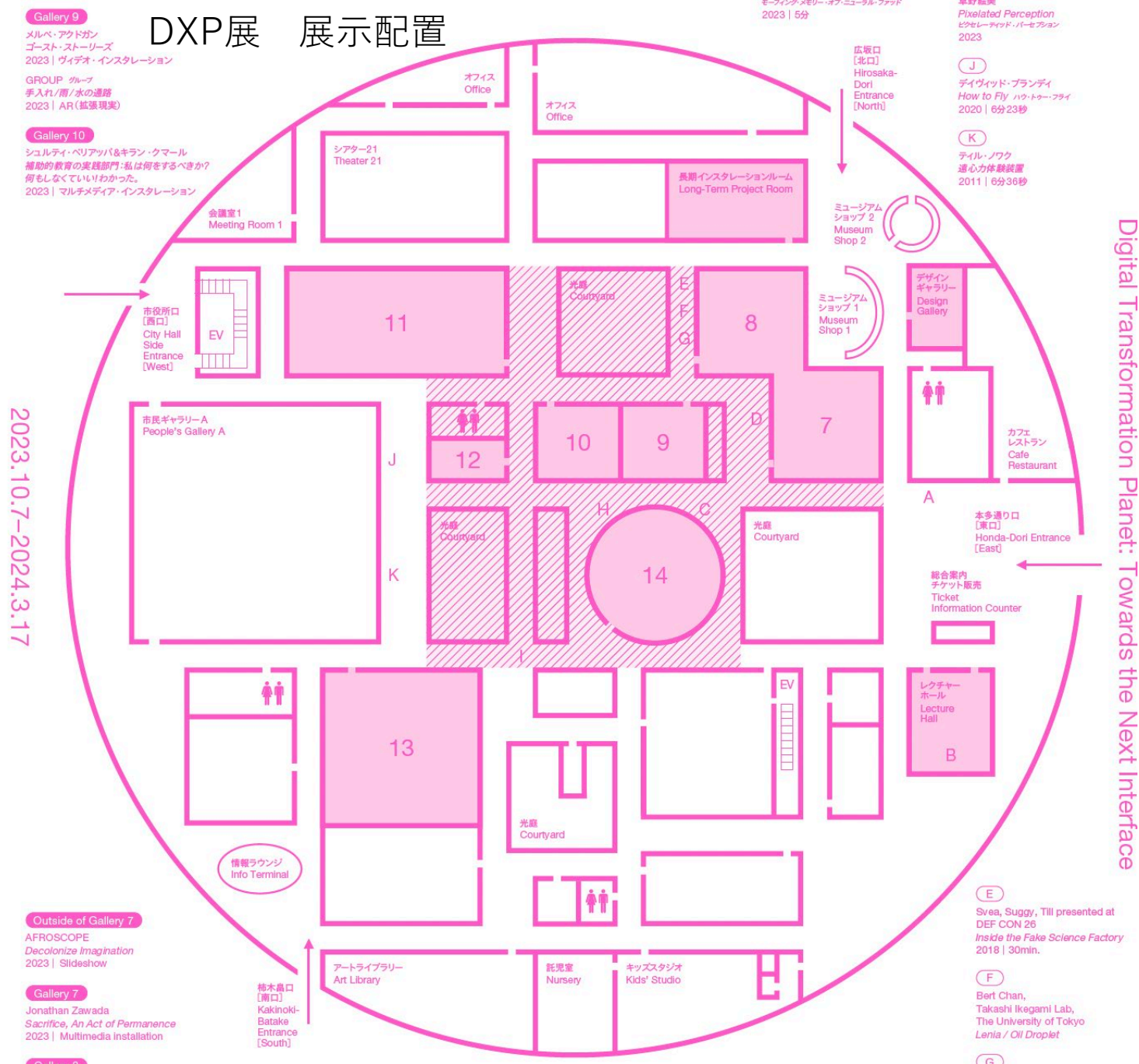
2024年3月17日



1月1日の地震により急遽中止



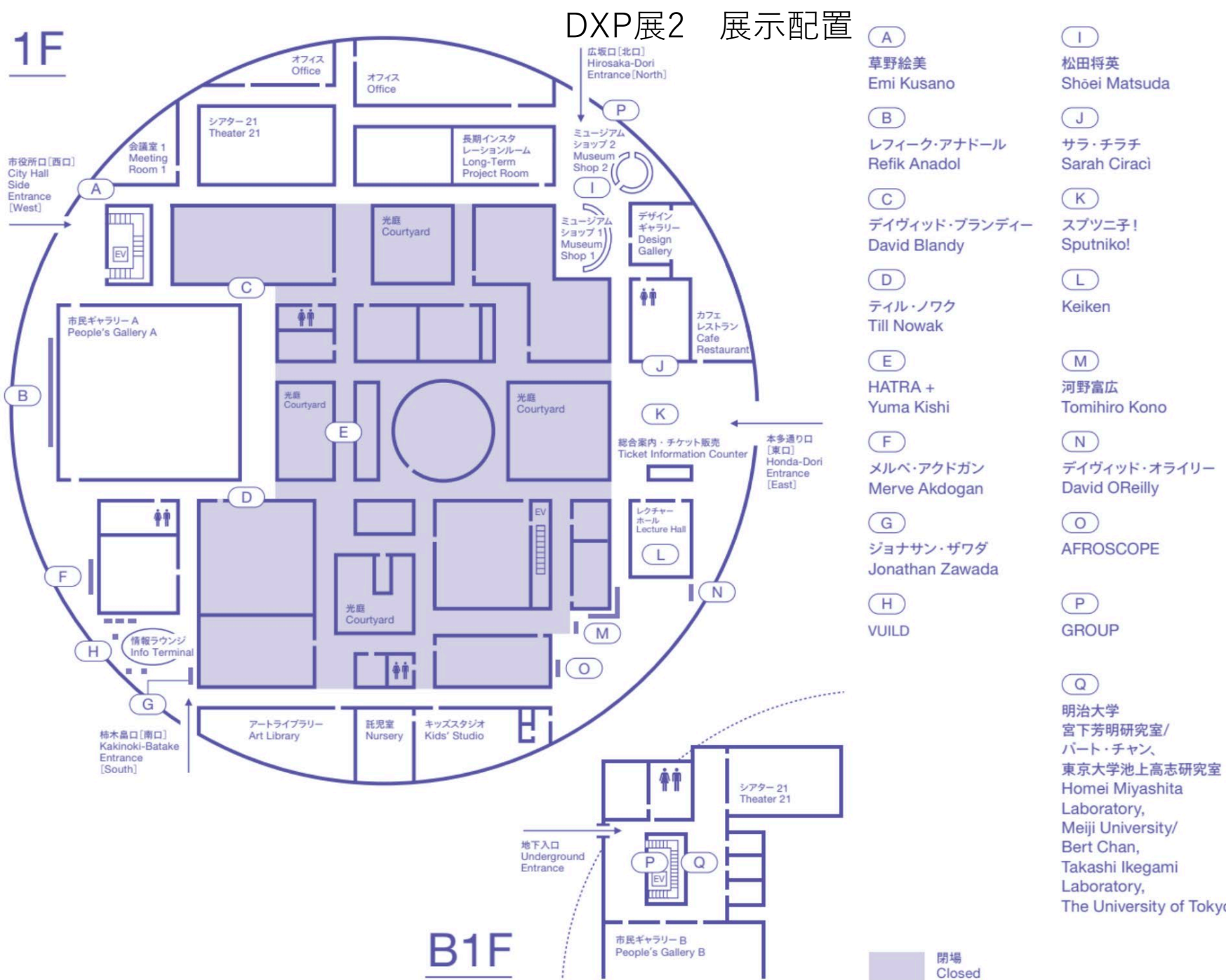
「DXP2展2」の開催へ



DXP2

「DXP2展」
2024年3月2日～
3月24日

デジタルの強みを生かし
「DXP2」を、交流ゾーン
を中心に展開。
美術館におけるキュレー
ションのレジリアンス
（この困難な状況を乗り
越えること）の提案の一
つとして発信。



DXP展 展示室8展示風景



レフィーク・アナドール
《Neural Paintings》A, B, C (2023)／他

DXP2

DXP2展 展示風景

撮影 木奥恵三



レフィーク・アナドール
《Neural Paintings》A, B, C (2023)

DXP2

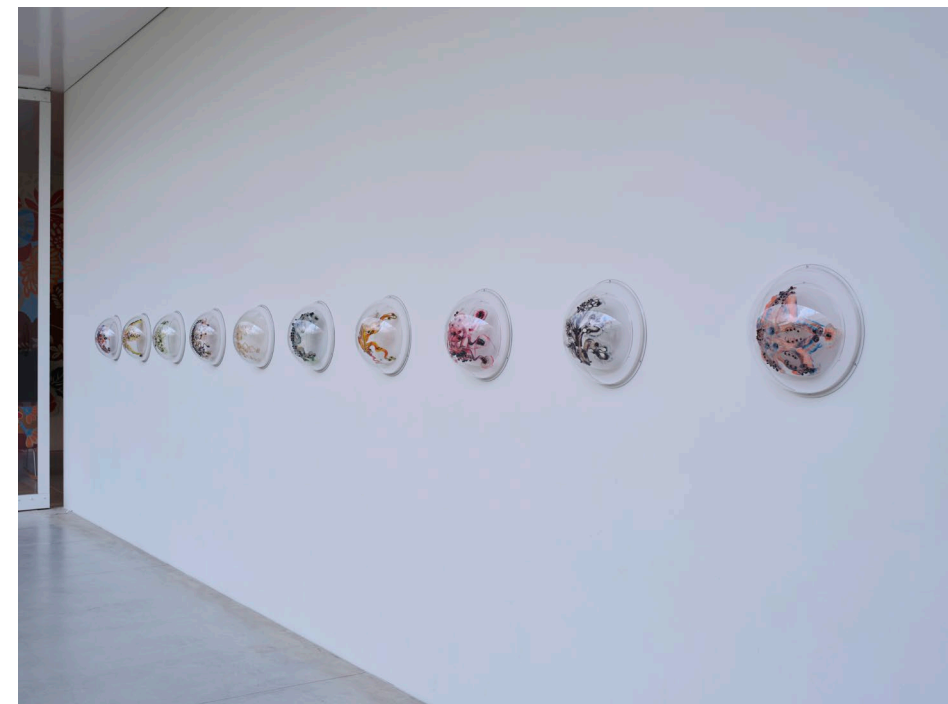
DXP2展 展示風景
撮影 木奥恵三

HATRA+Yuma Kishi



松田将英©Shōei Matsuda

DXP展 展示室8展示風景



河野富広 《Fancy Creatures》 2020/他

© Tomihiro Kono & konomad

DXP2

DXP2展 展示風景

撮影 木奥恵三



河野富広 《Fancy Creatures》 2020/他

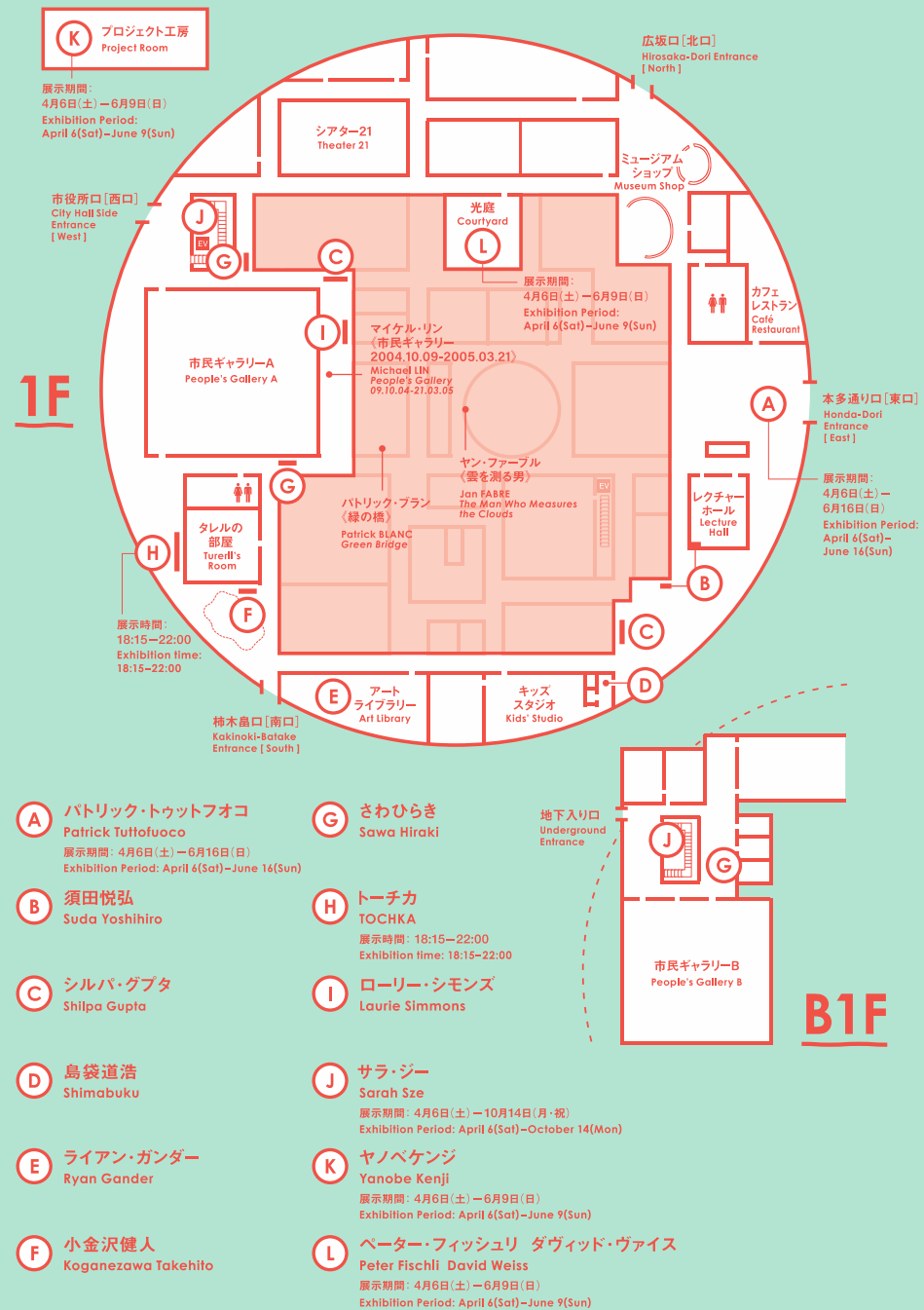
© Tomihiro Kono & konomad

ポップ・アップ・アート
コレクションとパフォーマンスを楽しむ

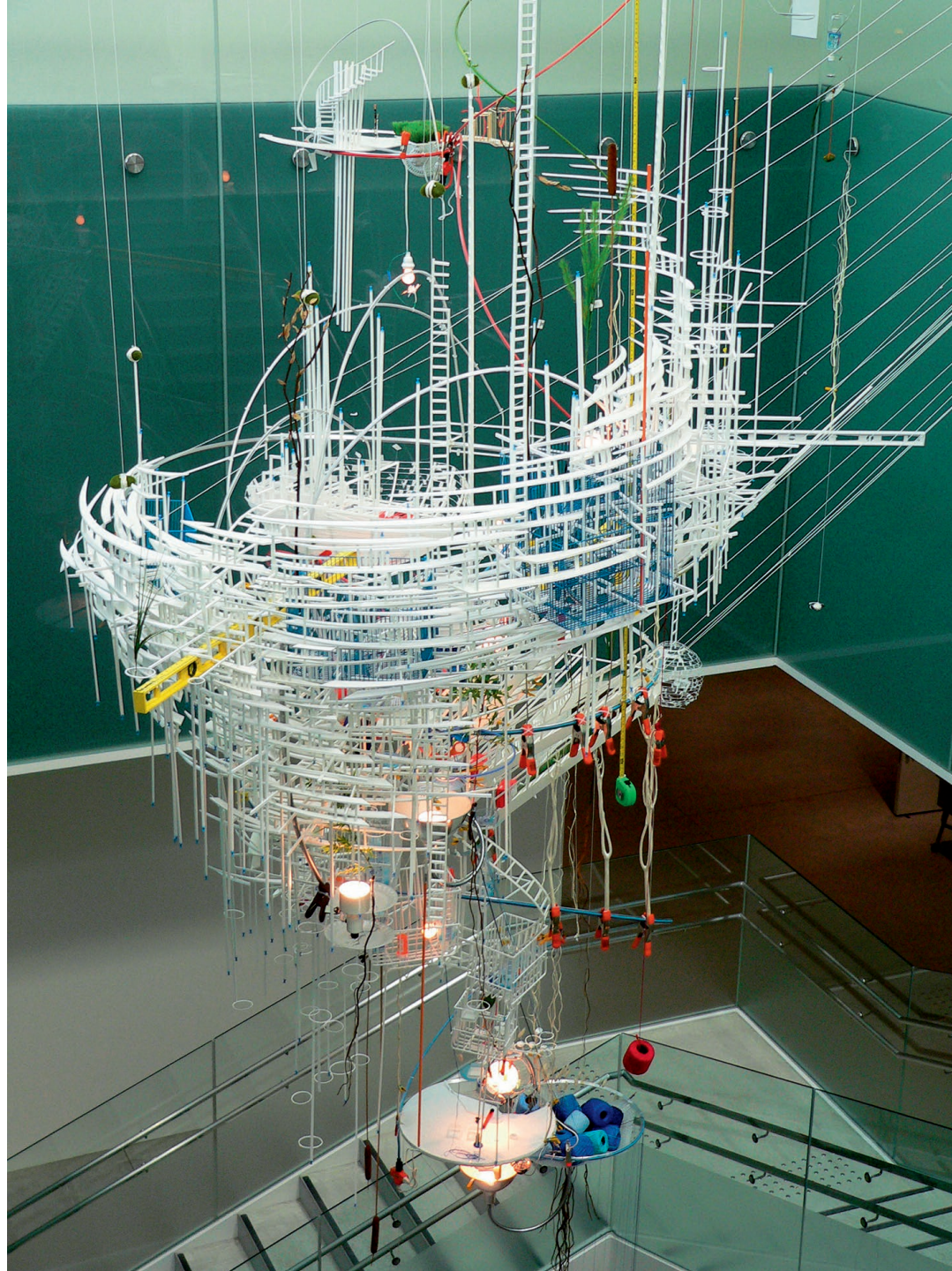
会期:2024年4月6日～7月15日

展覧会ゾーン閉鎖中に企画された展覧会。交流ゾーンに沿って周回する間に、まるでパソコンの画面の最前面に「ポップアップ」するように、次々とコレクション作品が目の前に現れるように作品を配置。コンサートやパフォーマンスも開催。

ポップ・アップ・アート展 展示配置



ポップ・アップ・アート コレクションと パフォーマンスを楽しむ



サラ・ジー 《喪失の美学》 2004

ポップ・アップ・アート

コレクションとパフォーマンスを楽しむ



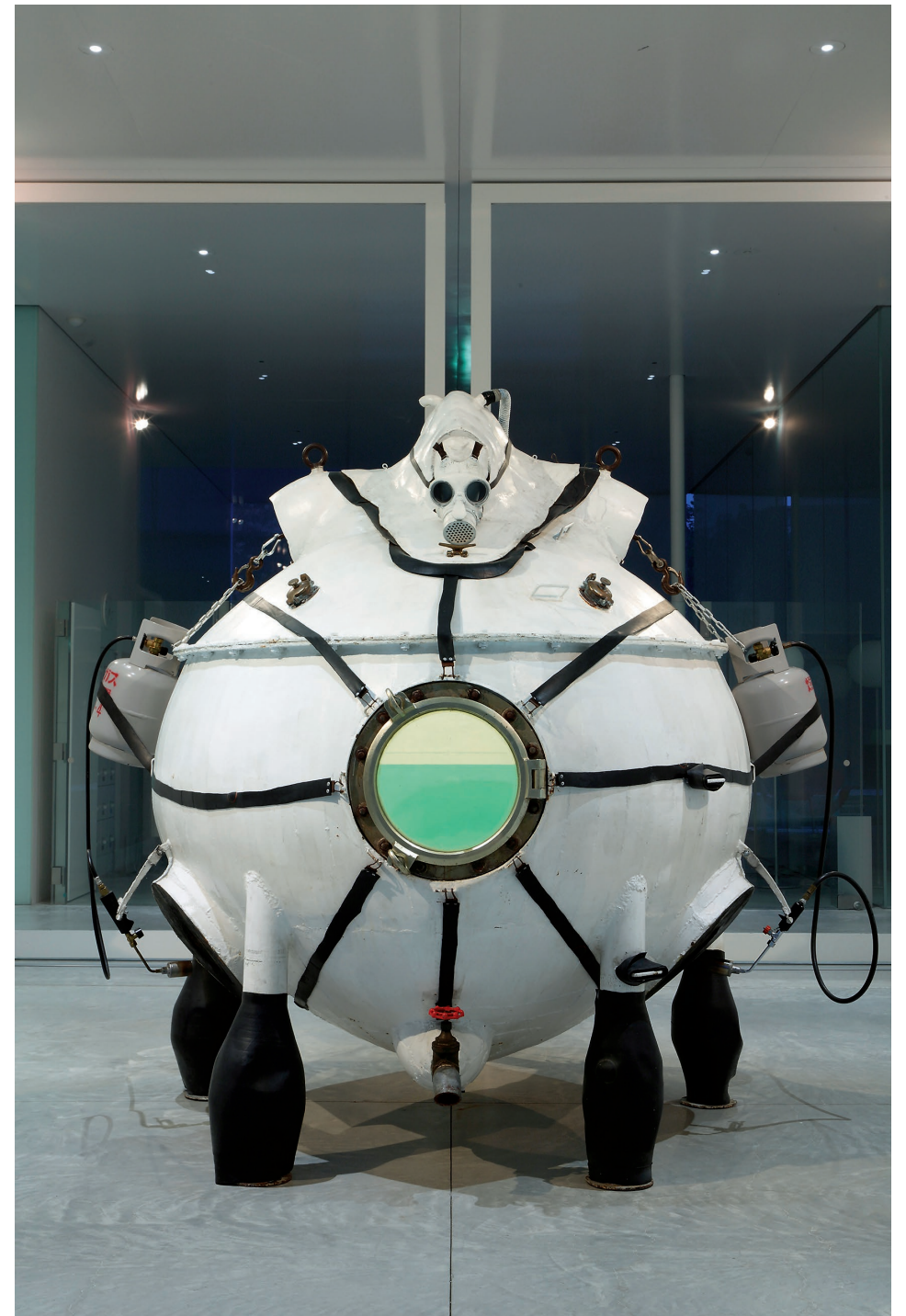
パトリック・トゥットフオコ 《バイサークル（シルヴィア、アレッサンドラ、エミコ、リツ）》2004

ポップ・アップ・アート

コレクションとパフォーマンスを楽しむ



ヤノベケンジ 《タンキング・マシーン》 1990



ポップ・アップ・アート コレクションとパフォーマンスを楽しむ パフォーマンス



声と琵琶とエレクトロニクス
2024年4月20日(土)



SEQUENCE for TOKYO 21XX
2024年5月31日(金)



ALIVE × CROSS
2024年6月15日(土)

美術館から町へ

『Everything is a museum』

『Everything is a museum』は、2024年1月1日に発生した能登半島地震の影響を、そして様々な危機に対して、私たちはどう向き合うのかを共有する運動。この運動は、金沢市内のアートスペースが繋ぎ合わさることで広がりと形をみせます。本運動は、ミーティング、ブック、作品、展覧会の形をとります。

企画:高木 遊

●Meeting

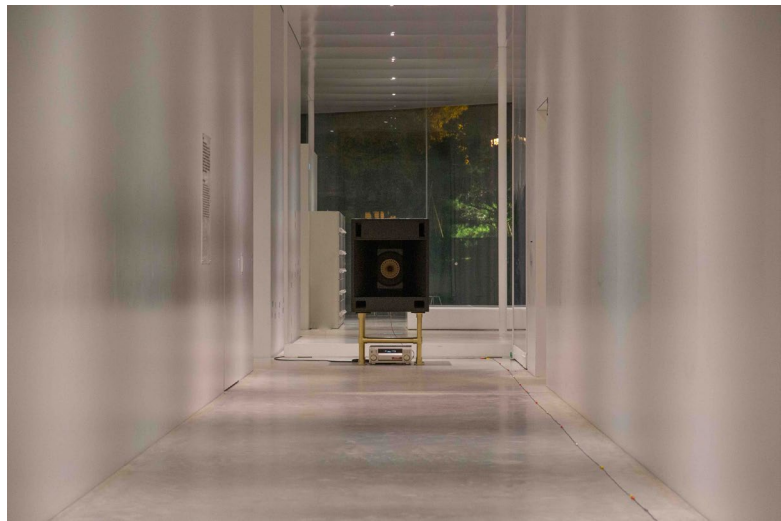
- Meeting 0 高木 遊、涌井 智仁 4/24
- Meeting 1 鹿野 桃香 4/29
- Meeting 2 井上岳、本橋仁 5/7
- Meeting 3 岡佑亮、山本周、本橋仁
- Meeting 4 SIDE CORE、高木 遊
- Meeting 5 新谷 健太 5/30
- Meeting 6 柳瀬安里、原田美緒 6/19



美術館から町へ 『Everything is a museum』



涌井智仁 《MONAURALS》
コレクション展2:電気-音展示風景
当初会期:2023年11月18日～2024年5月12日



涌井智仁 《MONAURALS》

美術館から被災地へ

『被災地のことばをかたちに #2』

一本杉通り復興マルシェに届けるスツールを一緒に
つくりませんか?』

2024年3月30日、31日

金沢21世紀美術館 プロジェクト工房

能登半島地震で被害を受けた石川県七尾市の一本杉通りで開催されている「復興マルシェ」を応援する企画として開催。マルシェで利用するスツールを参加者と一緒に制作するワークショップ。

材料は金沢産の杉集成材を使い、プロジェクト工房に設置したShopBot（木を切削する機械）で、リアルタイム加工しながら、参加者ととともにスツールをつくり、復興マルシェに届けた。「現地にボランティアに行きたいけど制限があっていけない」などの声も多数聞き、金沢からできるボランティア活動として、みんなでスツールをつくることで支援ができるプログラムとなった。「DXP2」で展示されているVUILD「わどわーどーことばでつくるせかい」と連動した企画。

企画:本橋仁

主催:金沢 21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]、VUILD 株式会社

共催:コクヨ株式会社、金沢市都市計画課・森林再生課、協力:一本杉通り振興会、オスモ&エーデル株式会社

「DXP — 次のインターフェースへ」
関連プログラム

被災地の ことばを かたちに #2

一本杉通り
復興マルシェに届ける
スツールを一緒に
つくりませんか？



2024

3.30日 3.31日

10:00—17:00

金沢21世紀美術館 プロジェクト工房
料金:無料

参加方法

プロジェクト工房に直接お越しください

※汚れてもいい格好でいらしてください

※事前申込不要

被災地で困っていることの解決をお手伝いする活動をしています。もし困り事がございましたら LINE を通じてオンラインで随時相談を受け付けています。公式 LINE アカウントから、相談を受け付けます。また最新情報もお届けします。



令和6年能登半島地震で被害を受けた石川県七尾市の一本杉通りで開催されている「復興マルシェ」を応援する企画として、マルシェで利用するスツールを金沢21世紀美術館に集まった参加者のみなさんと一緒に制作するワークショップを開催します。材料は金沢産の杉集成材を使い、プロジェクト工房に設置したShopBot（木を切削する機械）でリアルタイム加工をしながら、参加してくださるみなさんとスツールづくり、復興マルシェにお届けします。

本ワークショップは、先月当館で実施した企画企画「被災地のことばをかたちに 〜困りごとを解決する家具や道具をかたちにすお手伝いをします（2月23日・24日）」を開催した際、相談を受けたことで始まったプロジェクトです。一本杉通りの復興マルシェは、震災から1ヶ月後の2月から開催されており、今後も毎月実施することが決まりました。ただ必要な計画が足りない状況で、こうした相談を受けて、まずはスツールを提供することになりました。

また、「現地にボランティアに行きたいけど制限があっていけない」などの声も多数あり、金沢からできるボランティア活動として、みんなでスツールをつくることで支援ができるプログラムとしました。ぜひ多くのみなさんにご参加頂けたら幸いです。

なお、本プロジェクトは、「DXP（デジタル・トランスフォーメーション・プラネット）」で展示されたVUILD「わどわーどーことばでつくるせかい」と連動した企画として実施されます。前日に引き続き被災地のお困りごとやニーズなどの声を集めていき、会期終了後もできる限りのサポートを続けていければと思っております。ぜひ、お気軽に遊びにいらしてください。

お問い合わせ:金沢21世紀美術館 学芸課 076-220-2801 event.g.kanazawa21@gmail.com

主催:金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]、VUILD 株式会社

共催:コクヨ株式会社、共催/木の文化都市・金沢(金沢市都市計画課) 協力:一本杉通り振興会



美術館から被災地へ

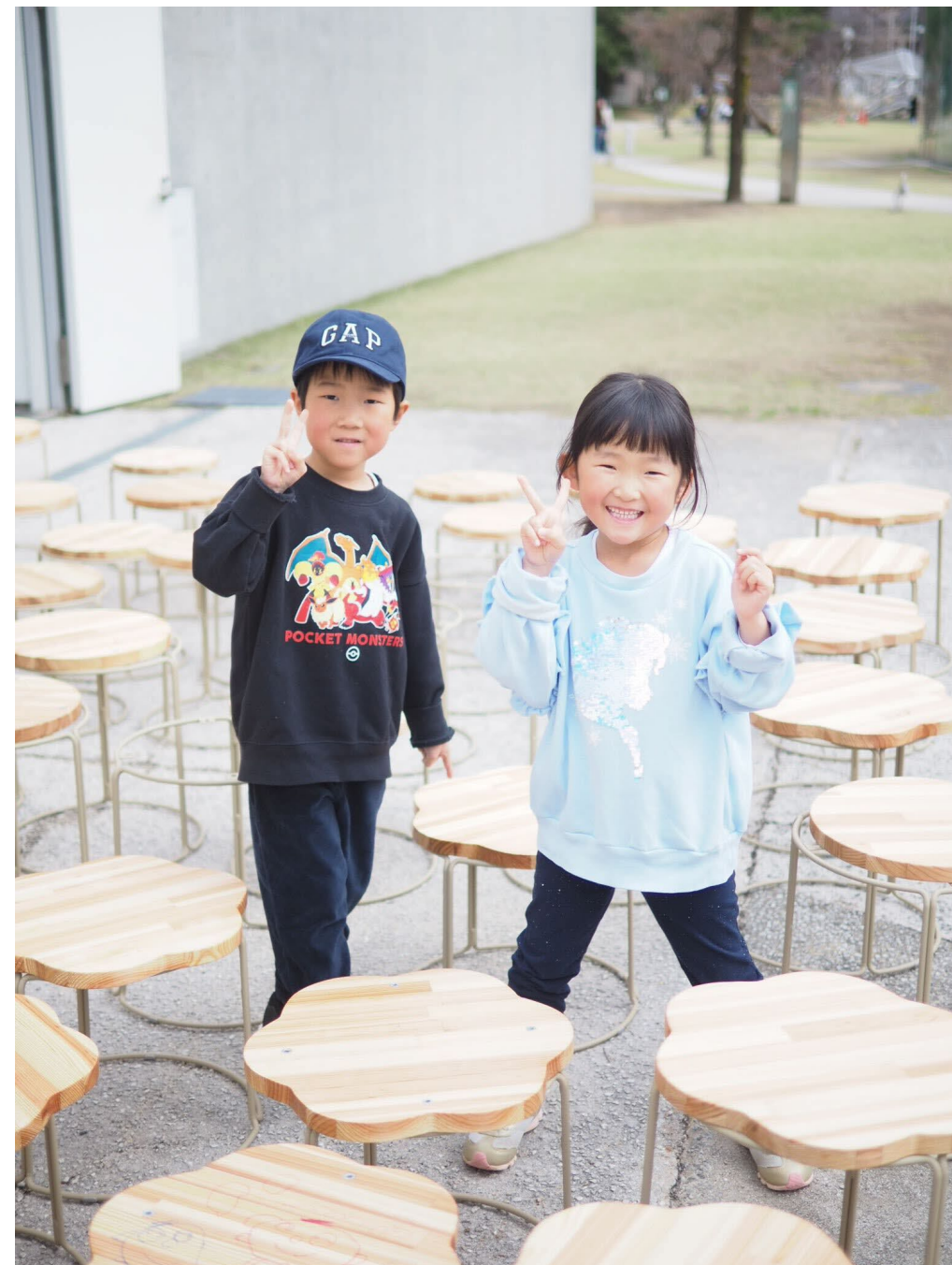
『被災地のことをかたちに#2

一本杉通り復興マルシェに届けるスツールを一緒に
つくりませんか?』



撮影:沼田汐里

2024年3月30日、31日金沢21世紀美術館
プロジェクト工房でのワークショップ



撮影:黒部駿人

美術館から被災地へ

『被災地のことをかたちに#2

一本杉通り復興マルシェに届けるスツールを一緒に
つくりませんか?』



2024年3月30日、31日金沢21世紀美術館
プロジェクト工房でのワークショップ

美術館から被災地へ

『被災地のことをかたちに#2

一本杉通り復興マルシェに届けるスツールを一緒に
つくりませんか?』



ワークショップで制作されたスツールは石川県七尾市の一本杉通り「復興マルシェ」で使用された。

美術館から被災地へ

『被災地のことをかたちに#2』

一本杉通り復興マルシェに届けるスツールを一緒に
つくりませんか?』



ワークショップで制作されたスツールは石川県七尾市の一本杉通り「復興マルシェ」で使用された。

アートが被災地で出来ること（DXP2から派生した館外活動） 『能登七尾一歩杉通り復興マルシェにて 「ちびでか山」を一緒に曳いてみませんか』

能登を代表する七尾市の「青柏祭」も1月1日に発生した能登半島地震の影響を受け、直後に中止が決まった。この「青柏祭」では、「でか山」と呼ばれる巨大な山車が練り歩く「曳山行事」が最大の目玉。震災の一ヶ月後からはじまった一本杉復興マルシェで、この「でか山」の代わりに小さな「ちびでか山」を製作することになり、1ヶ月かけて制作。子どもたちに地元の伝統的な祭りに触れられる機会をつくりたいと、本来のお祭りの日である5月5日に子どもたちと一緒に曳き廻した。

企画:本橋仁

主催:岡田翔太郎建築デザイン事務所、VUILD株式会社、学生有志(富山大学大学院2年 重山隼人・石川高専4年 門田啓矢)

共催:一本杉通り振興会、協力:小松マテーレ、青柏祭でか山保存会、本橋仁(建築史家)、三崎洋輔(構造家)、谷口俊平(金沢美術工芸大学)、助成:公益財団法人小笠原敏晶記念財団

能登七尾 一本杉通り復興マルシェにて

被災地のことをかたちに #3

「ちびでか山」を一緒に曳いてみませんか？

能登の最も盛大な春祭り「青柏祭」。昨年はコロナ以降4年ぶりの全面開催となりましたが、今年は、先の能登半島地震の影響により中止されることが決まりました。子どもたちに地元の伝統的な祭りに触れられる機会を創りたいと思い、地震により被災した一本杉通りで毎月第1日曜日に開催されている復興マルシェで、なにかできないかと考えました。そこで、「こどもの日」に開催される4回目の復興マルシェで子どもたちに向けて、青柏祭を感じられるイベントを行います。

2024

5.5 祝 11:00~14:00

場所: 能登 七尾 一本杉通り商店街・花嫁のれん館

参加無料 / 申込不要



①「ちびでか山をみんなで仕上げよう！」 11:00~12:30

山鉾(やまほこ)づくりワークショップと幕に絵を描くワークショップを行います！山鉾は運行中に使用します。持ち帰りOKです。幕はちびでか山に取り付けます。



②「みんなでちびでか山を曳こう！」 12:30~14:00

一本杉通りでちびでか山をみんなで曳いて歩きます！飛び入り参加OKです！3歳から小学生ぐらいまでが対象です。最後には邪気を払って解体まで行います。



タイムスケジュール

花嫁のれん館	一本杉通り
11:00	
15	
30	撮影会 ちびでか山 に乗って写真 を撮ろう！
45	
12:00	
15	
30	② みんなで ちびでか山 を曳こう！
45	
13:00	15分ずつ 計4回 運行します
15	
30	
45	邪気払い解体

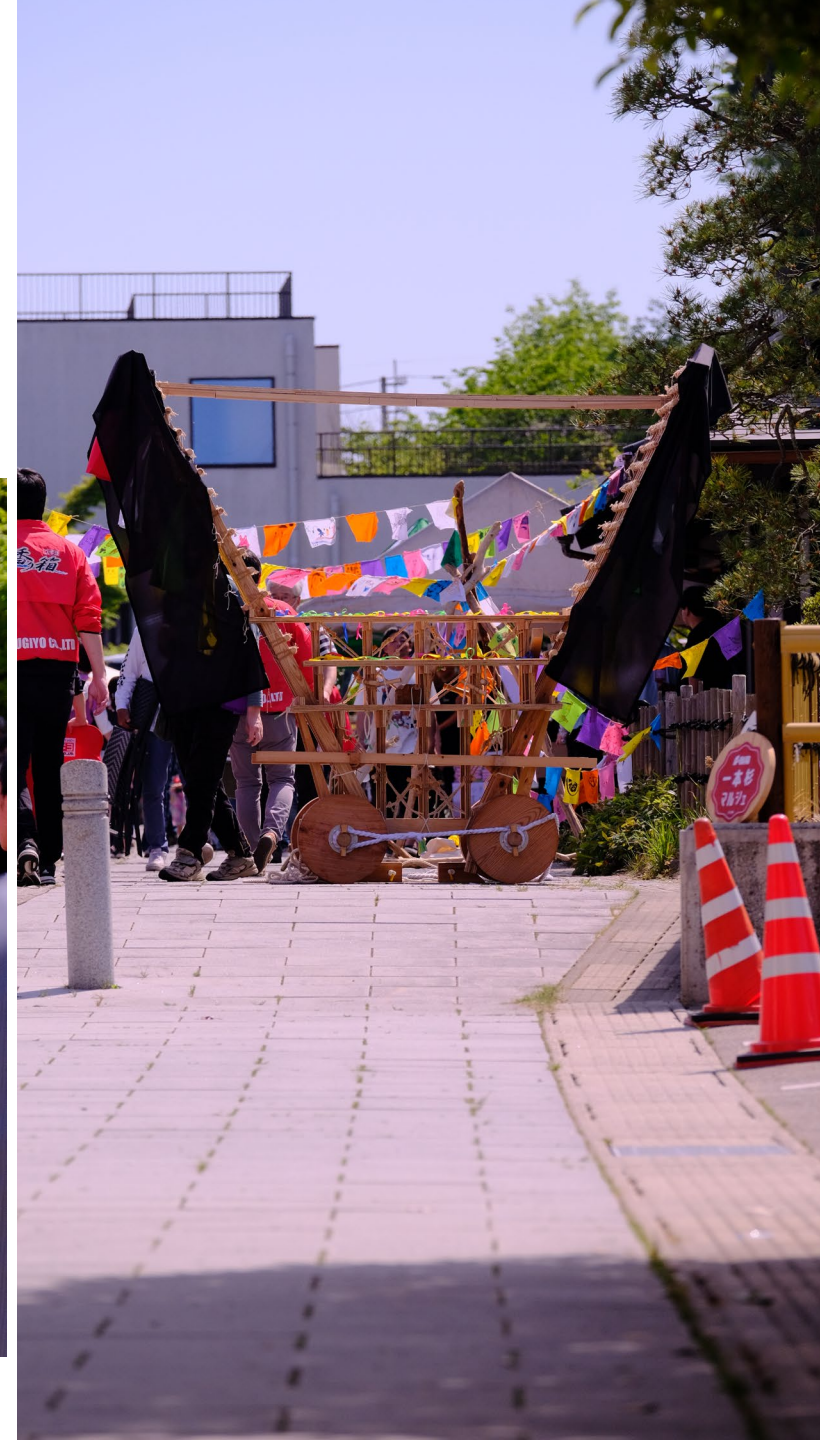
主催: 岡田翔太郎建築デザイン事務所、VUILD 株式会社、学生有志(富山大学大学院2年 重山隼人・石川高専4年 門田啓矢) 共催: 一本杉通り振興会
協力: 小松マテーレ株式会社、青柏祭でか山保存会、本橋仁(建築史家)、三崎洋輔(構造家)、谷口俊平(金沢美術工芸大学)
お問い合わせ: 岡田翔太郎建築デザイン事務所 k.m@shotaro-okada.com 本企画は公益財団法人小笠原敏晶記念財団の助成を受けて活動しています。

アートが被災地で出来ること（DXP2から派生した館外活動）
『能登七尾一本杉通り復興マルシェにて
「ちびでか山」を一緒に曳いてみませんか』

2024年5月5日

七尾一本杉通り商店街

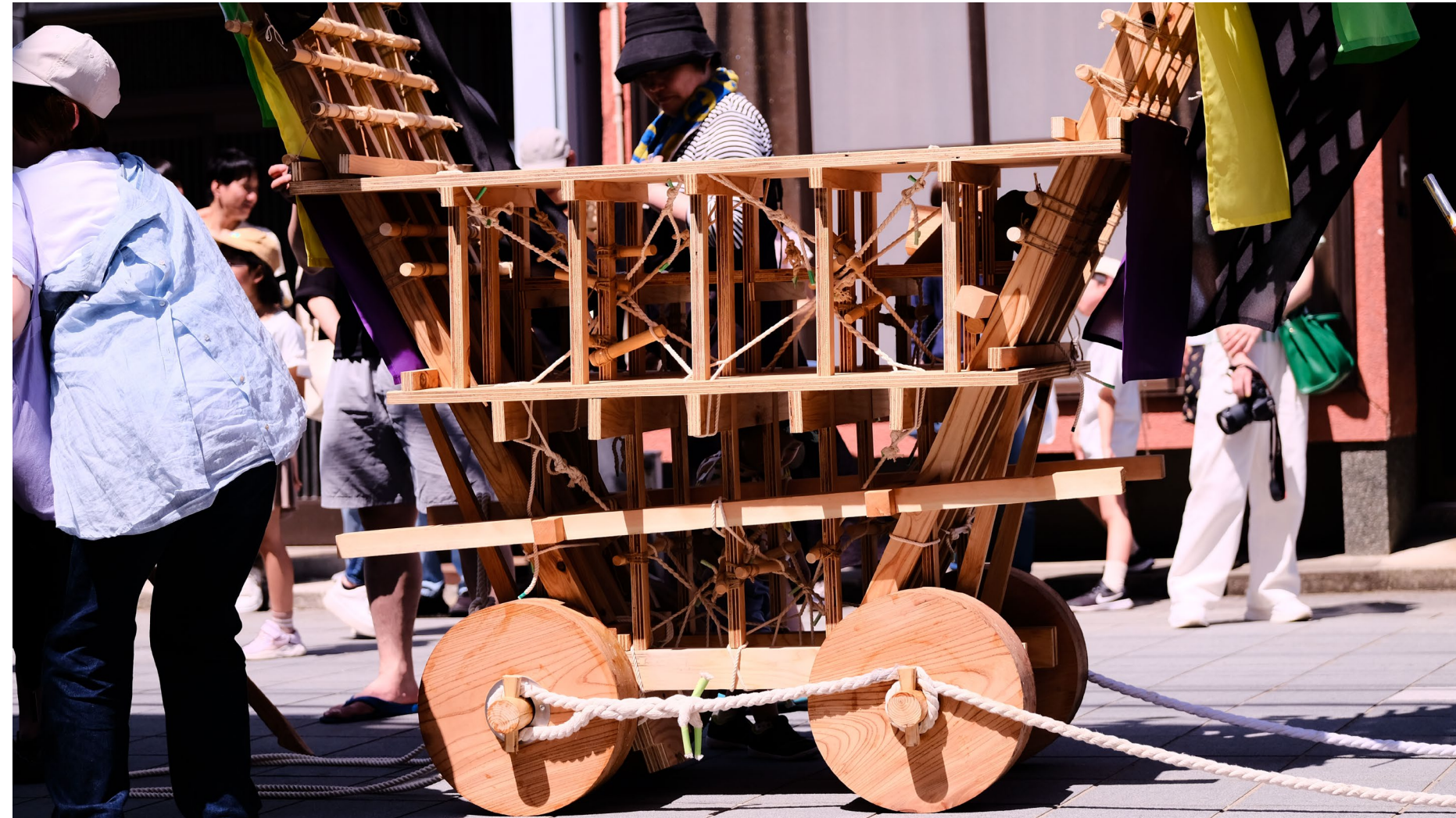
子どもたちに曳かれる「ちびでか山」



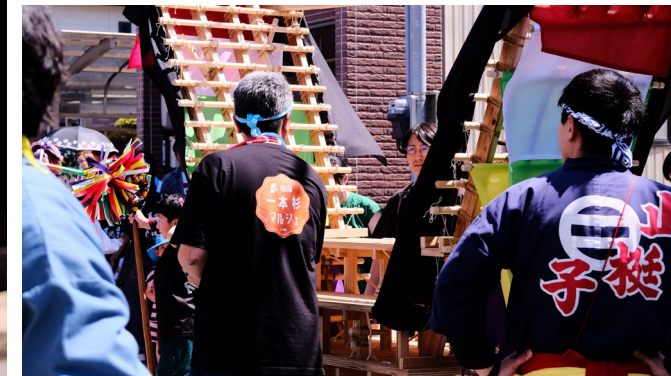
アートが被災地で出来ること（DXP2から派生した館外活動）
『能登七尾一步杉通り復興マルシェにて
「ちびでか山」を一緒に曳いてみませんか』



アートが被災地で出来ること（DXP2から派生した館外活動）
『能登七尾一步杉通り復興マルシェにて
「ちびでか山」を一緒に曳いてみませんか』



撮影:三崎洋輔



金沢21世紀美術館 開館による経済波及効果 (2004,10～2005,9)

「建設投資」による経済波及効果は217.2億円

「運営支出」による経済波及効果は6.1億円

「来館者消費」による経済波及効果は104.8億円

「金沢21世紀美術館」経済波及効果に関する調査報告書(平成17年9月) 大阪市立大学大学院創造都市研究科

「建設投資」による効果が最も大きくなっているが、これはそのほとんどが一時期（建設時）に発生するのに対し、「来館者消費」による効果は毎年生じるものである。美術館およびその周辺地域への効果的な活性化策等により、オープン2年目以降も多くの子集客を実現することが重要と思われる。

開館1年 (2004,10,9～2005,10,8)

入館者数 1,577,575人

来館者消費 104.8億



2018年(過去最高) 推定

入館者数 2,580,591人

来館者消費 173.6億

金沢21世紀美術館 開館(2004年)以後 金沢周辺でオープンした主なギャラリー、アートスペース

2004年に金沢21世紀美術館が開館して以来、金沢エリアには合計44のギャラリーがオープンし、そのうち38のギャラリーが現在も営業しています。





金沢市内の博物館 美術館との連携の可能性



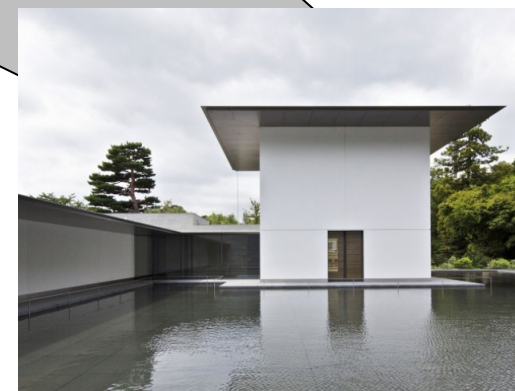
谷口吉郎・吉生記念金沢建築館



石川県立美術館



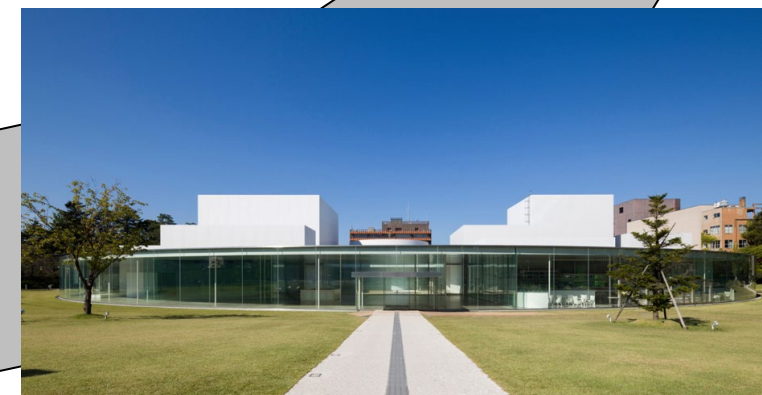
石川県立歴史博物館



鈴木大拙館



国立工芸館



金沢21世紀美術館

哲学

建築

工芸

現代美術

未来への志向

歴史

多様性

相互作用

相互共生

「甲冑の解剖－意匠とエンジニアリングの美学」 2022年5月3日～7月10日



「甲冑の解剖術－意匠とエンジニアリングの美学」 展示風景
photo by Muryo Homma (Rhizomatiks)

企画協力：石川県立歴史博物館

「ひとがた」をめぐる造形

2022年7月23日 - 9月11日



同展展示風景
撮影:木奥恵三

企画協力：国立工芸館

「時を超えるイヴ・クラインの想像力 ー不確かさと非物質的なもの」

2022年10月1日～2022年3月5日



同展展示風景

企画協力：金沢市立安江金箔工芸館

金沢21世紀美術館

3カ年計画 20周年記念までの計画

2022 ▶ 23

過去・歴史から学び、未来へ

2023 ▶ 24

アート×新しいテクノロジー

2024 ▶ 25

新しいエコロジーとアート、
動物・植物・モノなど全てを含んだ
新しい人の属性

21 

2024 ▶ 25

新しいエコロジーとアート、
動物・植物・モノなど全てを含んだ
新しい人の属性

21



Lines（ラインズ）―意識の流れに合わせる

2024年6月22日～10月14日

大巻伸嗣 《Plateau 2024》 2024

2024年1月1日の能登半島地震後に制作された作品。円盤にプリントされた世界を構成する大陸のダイナミックな動きと、その上に据えられた銀色のオブジェが日本海中央にある大和堆の上の空と海を、盤上を動く振り子には大和堆の地形が刻まれている。人間社会とは異なる軸で時を刻む大地や海。大巻は、実体を固定的で静的なものとして見るのではなく、関係の網の目の中に取り込まれ、環境との相互作用の中で常に変化しているものとして見るべきと本作で示している。



展示室7
大巻伸嗣 《Plateau 2024》 2024

コレクション展1

2024年6月22日～9月29日



展示室13
ガブリエル・オロスコ
《ピン＝ポンド・テーブル》
1998
金沢21世紀美術館蔵

すべてのものとダンスを踊ってー共感のエコロジーー

2024年11月2日～2025年3月16日

「新しいエコロジー」という年間テーマに呼応して、社会や精神までを含みうる、総合的なエコロジー理論の行く末を、アーティスト、科学者、哲学者などの研究者たちの鋭敏な感性と観察を通じて作品として展示する。境界を含めたアフリカ、南アメリカ、アジア、欧米の芸術家、クリエイターが集い、美術館空間の中でお互いにダンスを踊るように生命と共に生き延びるための知恵を分かち合う。



Pnat - Talking God | Thailand Biennale

PNAT

イタリア



Pnatは、デザイナーと植物科学者によるシンクタンク。植物のパターンや行動の理解をもとに、都市環境での革新的なデザインコンセプトや製品を開発し、人々の都市、住宅、ライフスタイルに植物を統合することを目指している。共同創設者は、科学者のステファノ・マンクーズをはじめ、植物学者、農学者、建築家から構成されており、マンクーズが所長を務める国際植物神経生物学研究所

(LINV) の実験に基づき、コンサルティングや教育活動を行っている。国際的な賞を多数受賞しており、代表的なものには、ゴールデンコンパス賞（ファイナリスト）、UNおよびCNRの「農業ビジネスのための革新的なアイデアと技術」賞などがある。

本展では、金沢の植物を組み込んだインスタレーションを予定。
推定樹齢1000年を超える神明宮の大ケヤキの生体信号を展示室内で受信し、光で表現する。



Pnat - Talking God | Thailand Biennale

PNAT 《Fabbrica dell'Aria》
JINSの事務所にある空気清浄機
能を持った作品



Fabbrica dell'Aria® PNAT
2023

©photo Takumi Ota

アマゾニア イヌイト等 先住民作家たち



Jaider Esbell
Maikan and Tukui (Foxes and Hummingbirds)

Oshoociak Pudlat
《人間のようにはる舞うカリブー》



ジョセカ



モルザニエル・イラマリ「夢の木「マリ・ヒ」」

JOSECA MOKAHESI

ジョセカ



Ōkarimari a, the anaconda spirit and its sons-in-law
2002 – 2010
Collection Fondation Cartier pour l'art contemporain

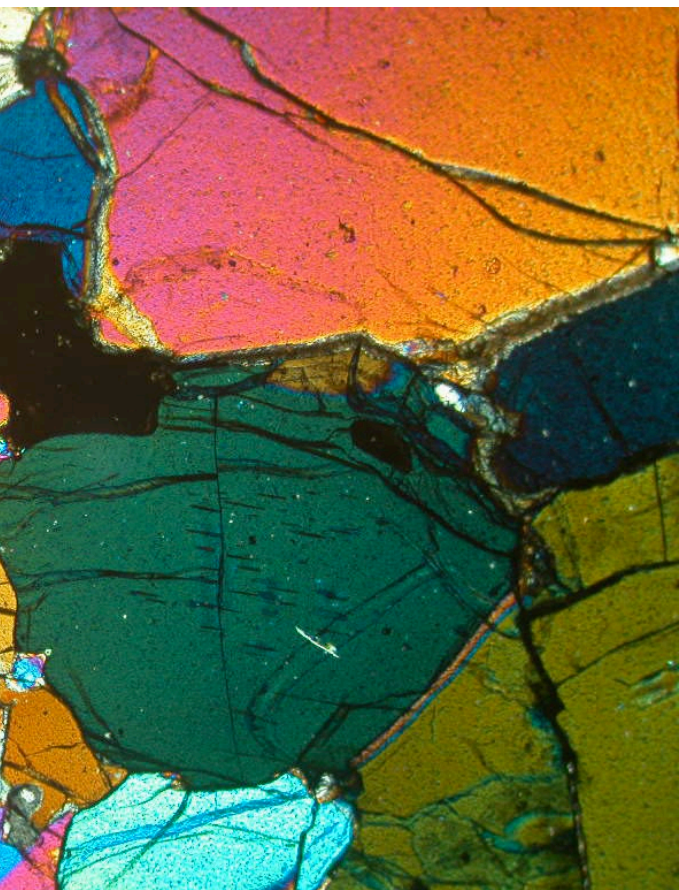


Amoa hi, female 'song tree' teaching women their herii celebration songs, 2002
Collection Fondation Cartier pour l'art contemporain

[プロジェクト]

アニメ・レイブ：存在の交差点で踊る

能作文徳、常山未央、総合地球環境学研究所



総合地球環境学研究所の研究者と、建築家の能作文徳、常山未央の協働によるプロジェクト。地球研研究者の研究を、資料/映像/音声などを交えたインスタレーションとして展示する。其々の視点が交錯し、そこから来館者が創発的な学びを得ることを目的とする。展示室と展示室をつなぐインビトゥー空間に展開予定。

総合地球環境学研究所

京都



総合地球環境学研究所（地球研）は、大学共同利用機関として、大学単独ではできない研究基盤の提供を通して、人と自然の相互作用環の根源的かつ包括的理解と地球環境問題の解決に向けた実践を目指す「総合地球環境学」を先導している。

[プロジェクト] Hope with Noto

震災によって割れた九谷焼を輪島塗の職人が金継ぎで修繕するプロジェクト。廃棄される破片を作品として生まれ変わらせるとともに、二次避難により分散した輪島塗の職人の技術を存続するための支援でもある。



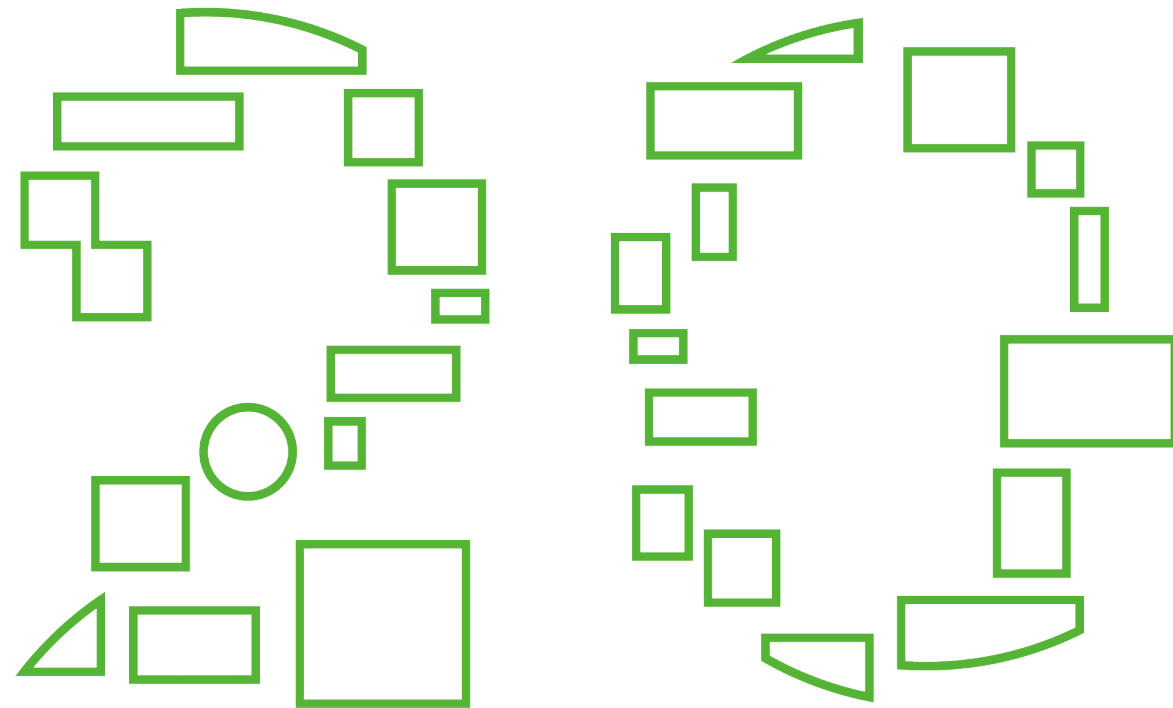


能美市の工房

能美市の工房







20th Anniversary



金沢 21 世紀 美術館

21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa